

松山理事長が「UNWTO 理事会」に合わせ世界各国のキーパーソンとの会談に臨みました

松山理事長は、5月10日・11日にスペイン・マラガ市で開催された「第103回 UNWTO（世界観光機関）執行理事会」に参加し、あわせて世界各国から会議のため当地に集まった観光関係閣僚やスペイン外務省、さらに UNWTO リファイ事務局長らと相次いで会談を実施し、日本と諸外国との観光交流促進に向けた精力的な活動を展開しました。

UNWTO 執行理事会は、25年振りに UNWTO 理事国に復帰した日本を代表として観光庁古澤審議官が出席したもので、松山理事長は UNWTO 賛助加盟員である JNTO を代表して参加しました。来年 2017 年が、国連が定める「持続可能なツーリズム国際年」とされており、本会議でもこれに関連した話題が多く出され始めたことから、いよいよ国際年に向けた盛り上がりも今後国内外の各所で生まれてくることを感じさせる会議となりました。

この会議の期間中、松山理事長は、JNTO が新たに海外事務所の設置準備を進めている国々より参加した観光関係閣僚とのバイ会談をきめ細かく展開し、事務所の設置とその後の二国間の観光交流面での相互協力を強く働きかけ、いずれの国からも申し出に対する好意的な反応を得ることができました。

また、松山理事長は、理事会終了翌日の5月12日には、マドリッドにあるスペイン外務省を訪れイグナチオ・イバニエス外交長官と会談を実施しました。今秋に予定されているイベリア航空の成田＝マドリッド定期直行便就航や、準備が進められている JNTO マドリッド事務所の早期開設実現を通じ、日西間の観光交流拡大を図るという点で両者の考えが一致し、実のある会談となりました。その後、松山理事長は、観光庁や在スペイン日本大使館関係者と共に UNWTO 本部を訪れ、タレブ・リファイ事務局長らと日本＝UNWTOの相互協力について意見交換を実施しました。この会議には、この4月まで JNTO 海外プロモーション部長を務めた後、日本人としては初めてとなる UNWTO 本部事務局長アドバイザーに就任した亀山秀一氏も UNWTO 側の一員として参加するなど、JNTO にとっても記念すべき訪問となりました。

JNTO は、今後も国際観光社会の一員として UNWTO を始めとする国際観光機関との連携を重視し、日本のプレゼンス向上に努めてまいります。



UNWTO 理事会に参加した各国観光関係閣僚と松山理事長
(前列右から6人目が UNWTO リファイ事務局長)



スペイン外務省イバニエス外交長官と
会談前の握手